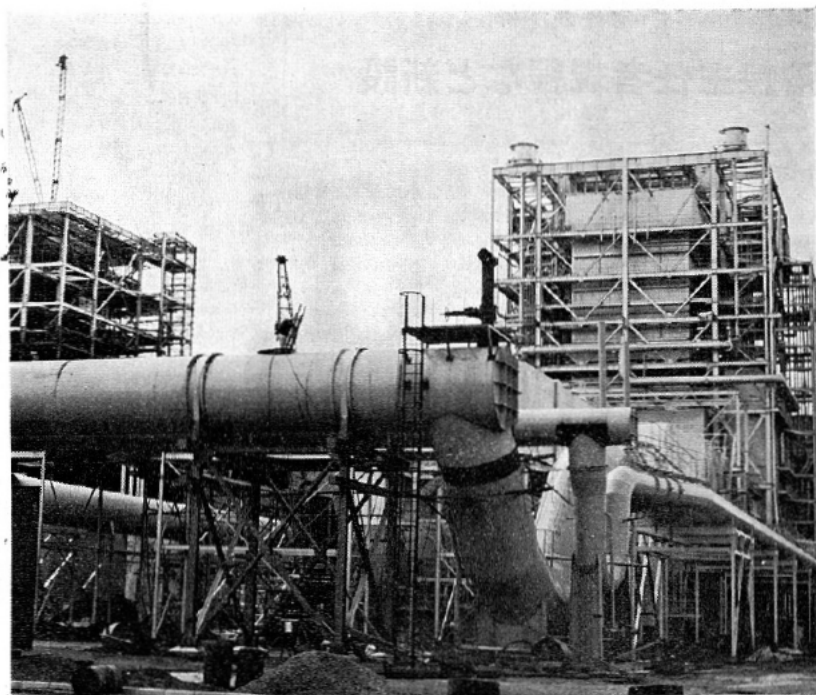


1号機タービン据付け工事が完了



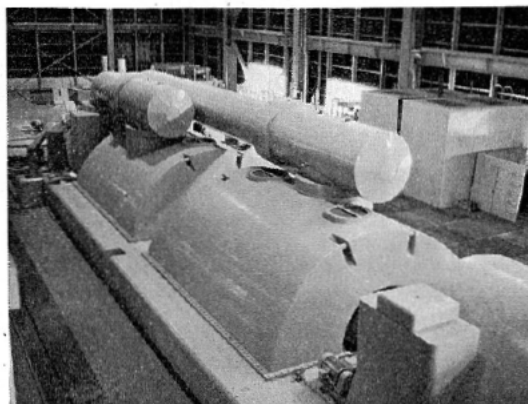
〔写真〕完了した大分共同火力1期（出力=25万KW）（右） 左は現在建設中の同2期（25万KW）

〔大分=10月19日〕当社は昨年4月上旬から、大分市大字坂3号埋立地の大分共同火力（九州電力と新日本製鉄との折半出資）1号機（出力25万KW）のタービン部門建設工を行ってきたが、すでにタービンガバナー試験も終り、現在営業運転を待つだけとなっている。

大分共同火力は、大分臨海工業地帯3、4号地に建設中の新日本製鉄の動力源になるもので、当社は45年4月ごろから先行工事を開始、8月には本格的に工事を進めるため、大分共同火力作業所（榎光恒一所長）を設置していた。

この工事は日立プラントから受注したもので作業所設置後、給水ポンプ、復水ポンプ、給水加熱器、脱気器などの据付けが始まり、今年に入って1月26日には、自重260トンにのぼるステーターの吊り揚げ、2月下旬からはタービン本体の据付けが行われていた。5月11日にはタービン中間検査、6月28日から8月中旬にかけてはオイルフラッシングと順調に進み、9月3日にはボイラからの蒸気が入って通気が行われた。

このあと、ガバナーテストが9月11日から始まり、この日は4分の1、16日には4分の2、18日には4分の3、23日には全負荷とスムーズに進み、当社の1号機建設工事はすべて完了した。



〔写真〕当社が据付け工を行なったタービン発電機

急ピッチで進む2号機工事

一方、2号機（出力=25万KW）のタービン部門据付け工事についても日立プラントから受注、すでに機械関係では復水器上部側の組立て、脱気器、各ヒーター類の据付け、モーター駆動の給水ポンプのグラウト補機関係のポンプ類の据付けなどが終り、現在、タービン駆動の給水ポンプの据付けや、来年3月15日予定のプラント水圧をめざして、各配管関係の工事が進んでいる。

また、電気関係では、現在中央制御室のBTG盤、メタルクラッドの低圧バスダクト、タービン本館の電灯照明工事などがさかんに行なわれており、三菱重工から受注の計装工事のうち、ABCリレーラックの据付けも進められている。

なお、これからの工事予定としては、発電機のボームアップが12月1日の予定で、タービン本体の据付けは47年3月中旬ぐらいになりそう。

～ 昭電2期工事が終る～

作業所も10月15日に廃止

〔大分=10月19日〕当社は昨年9月4日に行なわれた発電設備の立柱式以後、鉄骨建家の組立てを開始、11月27日にはドラム吊り揚げと本格的に工事に取組んでいた昭和電工2期増設工事は、このほどそのすべてを終り、昨年8月に開設された昭和電工作業所も10月15日付けで廃止された。

当社は、大分市大字中ノ島2番地にある昭和電工大分化学コンビナートの2期増設工事のうち、380万/日ボイラ、出力3万5,000KWの蒸気タービンからなる発電プラント一式の据付け工事を日立プラントから受注、11月27日には重量78トンのドラム吊り揚げ工事、今年に入って2月24日にはボイラ水圧試験、5月10日に火入れ、5月31日には安全弁封鎖と進んでいた。一方タービン関係も

8月12日に中間検査が終り、9月16日には通汽と工事を消化、このあと9月27日からガバナーテストが行なわれ、27日には4分の1、29日には4分の2、30日には4分の3と全負荷とすべてを終った。

10月4日から12日まではメタルの点検が行なわれ、すでに13日からは4分の3の負荷で確認運転が行なわれている。

これで当社の関係工事は全部終り15日付けで昭和電工作業所も廃止されて、仮設建物や工事用電源などの撤去作業が進んでいる。

なお、この工事は電力会社の工事とくらべて工事が短かいうえ、作業場所が狭く、かなり作業がやりにくい面が多かったようだ。

また、同発電設備の官庁調査は、12月15日の予定。